

トンネルじん肺根絶第8陣北海道訴訟

「12月に和解できるようにしたい」

10月1日に、「トンネルじん肺根絶第8陣北海道訴訟」の第4回口頭弁論が札幌地裁で開かれました。はじめに、布施雄士裁判長が「原告と被告からの異議申し立てを受けて、10月末までに第2次の職歴認定を出す。12月の次回口頭弁論期日に和解できるようにしたい」と述べました。

第8陣原告の澤田和人さんが意見陳述し「日ごとにじん肺の症状が進行するように感じる。私たち原告は、治る見込みのないじん肺になってしまい将来の不安を感じている。これまで続けてきたこの裁判で、解決前に何人もの原告が亡くなっているそうだが、被告ゼネコンの間の負担割合を決めるための職歴確定に時間をとられているのは理不尽だと思っている。そういうことをしないで早期に救済されるトンネルじん肺基金制度を創設することは、これまで続けてきたこの裁判の原告の願いだ」と訴えました。

次に渡辺達生弁護士が「統一和解基準について」「札幌地裁における原告の被告選定の考え方」などをふくめて訴訟進行についての意見を述べ、次回期日での和解成立にむけて尽力いただきたいと求めました。なお、第5回口頭弁論期日は12月16日（火）午後2時からです。

北海道鉄道本部が恒例の「観楓会」 パークゴルフ交流大会も

悪天候が心配されましたが、前日からの雷雨もあがった9月21日に北海道鉄道本部は恒例の「みんな集まれ観楓会」を開催し、23名の仲間たちが秩父別町に集まりました。前段に秩父別パークゴルフ場で交流大会をおこないました。優勝賞品に山形県置賜産直センターの特別栽培米などが用意され、大いにプレーを楽しみました。優勝は苗穂・最上さんが春の交流大会に続いての連覇、準優勝は苗穂・鈴木さん、三位には苗穂・佐藤さんなど6位までが苗穂支部の独占となりました。今回はホールインワン賞に江口さん・大井さん・鈴木さん・松本さん・宮武さんの5名もが受賞し、パット賞には滝川・佐藤さん、ニアピン賞は竹田委員長が獲得しました。ブービー賞は今年の春にデビューした札運・大井さんがライバルを抑えてゲットしました。メーデー全道集会の抽選会で苫小牧・小野寺正夫さんが当選したビール券がパークゴルフ交流大会の賞品に寄贈されました。広域採用で首都圏に移って共に活躍した佐藤英明さんと新採勤務地が苫小牧だった松本和憲さんへと、縁のあるお二人に渡されました。なお、小野寺さんは先日亡くなりました。小野寺さん有難うございます、そして、心からご冥福をお祈りいたします。

観楓会は秩父別温泉「ゆう&ゆ」に宿泊し、豪華な食事に生ビール付の飲み放題で満腹となりました。毎度おなじみのビンゴ大会でも山形県から届いた特別栽培米を1等景品にゲームが盛り上がり、札運・大井さんが一番でビンゴとなりお米を得ました。缶ビールギフトやお菓子ギフト、スープやみそ汁の詰め合せなど全ての参加者に景品が贈られました。来年の開催地を南幌温泉に決定して、楽しいひと時を終えました。

北海道鉄道本部 竹田吉宏